第 70 回考古学研究会ポスターセッション　2024/4/20・21

マリアナ諸島の人類はどこから来たか －貝製品からの分析－

山野ケン陽次郎
山極海嗣
片岡修

1　マリアナ諸島の起源問題

マリアナ諸島の先史時代は、赤色スリップ土器や豊富な貝製装飾品を持つ先ラッテ期（1500BC ～ AD1000）と石柱遺構 Latte stone を建築するラッテ期（AD1000 ～ 1521 頃）に大別でき、各時期の人類入植モデルが示されてきた。これまでに先ラッテ期の土器群とフィリピン北部の土器群との類似性が指摘され、有力な起源地とされた（Carson et al. 2013）。しかし、土器製作技術の違いや航海条件などから、起源地をルソン島以南の東南アジア島嶼部に求める見解も示されている（Winter et al. 2012）。

土器以外の物質文化も検討する必要性有り！

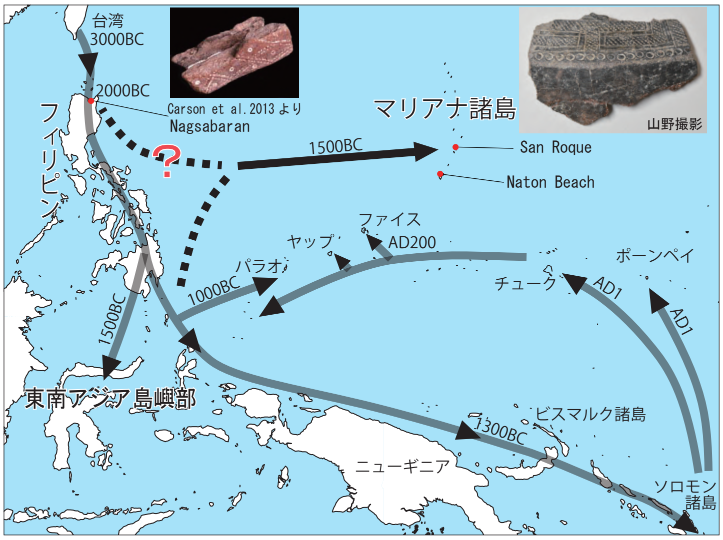

図 1　マリアナ諸島とその周辺地域への人類拡散ルート

2　貝製品の分析

マリアナ諸島では多種多様な貝製品が先史時代を通して出土するが、各時期の貝製品組成を把握する総合的研究が不足している。本研究ではマリアナ諸島の貝製品を悉皆的に集成し、素材や形態を基準に分類し、各時期（Ⅰ～Ⅴ期）の貝製品組成の把握に努めた。2017 年度～ 2023 年度にはグアム島、サイパン島における現地調査を実施した。

写真 1　マリアナ諸島の貝製装身具（Naton Beach site：山野撮影）

3　貝製品組成の変化

貝製品は実用品、装飾品の両者において第１段階（Ⅰ・Ⅱ期）と第２段階（Ⅴ期）で顕著な変化が認められた。

- シャコガイ科製貝斧の「蝶番部利用型」から「腹縁部利用型」への変化
- 単式釣針の「造り出し型」から「刻み型」への変化
- 第２段階におけるゴージ（トビウオ用釣針）や組合せ式釣針の顕著な利用
- 装飾品のイモガイ科からウミギク科への素材変化
- リングからシャコガイ科、ウミギク科垂飾への変化

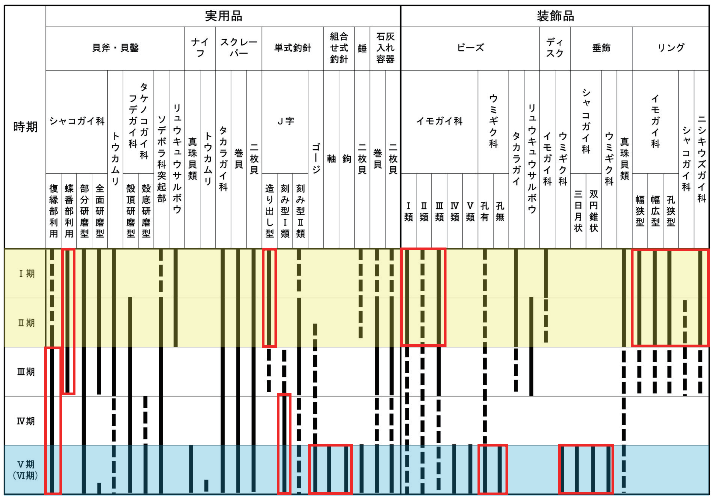

図 3　マリアナ諸島における貝製品の消長（山野 2022）

図 4　マリアナ諸島における貝製品組成変遷図（山野 2022）

4　結論

マリアナ諸島における初期入植期の貝製品組成は種類、素材、形態に明確な特徴があり、その内容は起源地との繋がりを想定させる。

今後は、フィリピンを含む東南アジア島嶼部またはミクロネシア、メラネシアにおいて、土器に加え、貝製品等の物質文化を総合的に比較していく必要性があるだろう。

本科研は JSPS 科研費 JP17K13565、JP22K00988 の助成を受けたものです。

引用・参考文献
山野ケン陽次郎編 2022『先史マリアナ諸島における貝製品の研究』 課題番号 17K13565「先史時代におけるマリアナ諸島の貝類利用の考古学的研究」研究成果報告書　熊本大学埋蔵文化財調査センター
Carson, M. T., H. Hung, G. Summerhayes and P. Bellwood. 2013. The Pottery Trail from Southeast Asia to Remote Oceania. *Journal of Island & Coastal Archaeology* 8: 17–36.
Winter, O., G. Clark, A. Anderson, and A. Lindahl. 2012. Austronesian Sailing to the Northern Marianas, a Comment on Hung et al. (2011). *Antiquity* 86: 898-914.